2019-2020年度

Rotary
丸亀ロータリークラブ

RI会長
M.D.マローニー
ロータリーは
世界をつなぐ

まるがめ

週報

2019.9.5
Vol.57
№9
（2767）

会員数 61名　出席者48名・欠席者11名・免除会員4名
欠席者　麻田・和泉享・小山・松山・中野昌・曾川・後藤・福田・岸上
大西信・山田一会員

前々回出席率　86.4%（8/22）

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会　長　齋賀 護
幹　事　中川 清
会報委員長　和泉 清憲

お知らせ

∵ 9月のプログラム
5 (No.1)-会員卓話
12 (No.2)-クラブフォーラム
19 (No.3)-ｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐公式訪問
26 (No.4)-夜間例会

∵ 他RC例会変更
丸亀東　9/10　夜間例会
善通寺　9/11→9/10　夜間例会
坂出東　9/17　坂出RCと合同

∵ ニコニコBOX；なし
祝誕生月
橘君　夏見君
出席できなくて
眞鍋君
”ﾋﾞｰﾙとﾄﾞｲﾂ音楽”ありがとうございました
塩田君
林会員の卓話を聞いて
齋賀君

<ニコニコ会計累積/￥75,000>

∵ がんばるBOX；なし
早退します
山内光君
祝結婚月
森高君

<がんばる会計累積/￥87,000>

例会場・事務局　丸亀市塩飽町48―1　丸亀プラザビル

■会長挨拶
今日は、スーパーボランティア尾畑春夫さんについてお話します。
尾畑さんは1939年（昭和14年）10月11日生まれで、7人兄弟の5番目です。家は下駄屋をしており、生活は豊かではありませんでした。中学の時、魚屋で修業をし、ふぐについて勉強していたそうです。29才で大分に戻り、魚屋を開業し、結構、繁盛していたようです。ボランティアといえば、衣食住すべてを自分で行いますが、何事にも非常に質素であり、人に迷惑を掛ける事なく、事故完結する事がブランティアであるという持論をもっていました。
学歴も何もない自分が、ここまでやってくる事ができた社会に対し恩返しのつもりで、ボランティアを行なっているそうです。その一途な気持ちで1か月に1000キロぐらい歩いてボランティアに行って、ひと段落したら、大分に戻り、3～4時間温泉に入る事が唯一の楽しみだそうです。尾畑さんは、不審者と間違われないように、いつも赤い鉢巻を巻き、Tシャツに名前を書いているそうです。このような人間が出てくる日本は、まだまだ悪い国ではないと思います。

■幹事報告
① 10/27、香川県RC親睦ゴルフ大会、丸亀RC全員でおもてなしをしたいと思いますのでお手伝いをお願いします。
② 例会後理事会を開催します。

■理事会報告
① プログラムについて。9/26、観月会は高松千春様を迎え懐風亭にて開催、10/3、ｶﾞﾊﾞﾅｰ公式訪問、10/17、米山奨学生ｴｽﾞｽﾞさんの卓話。
② 米山梅吉記念館50周年記念特別寄付について、個人寄付で協力することで承認された。
③ 会員増強委員会「世の中なか塾」事業、1回目を9/19（木）に例会場で開催されることが承認された。
④ 瀬戸芸ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ参加について。メークアップ事業であることを確認。

■例会事業;会員卓話；林会員

今日は、趣味の話をさせて頂きます。趣味といえば、単車と旅ですが、なるべく自己満足にならないようにしたいと思います。
何故、単車と言うかというと、1945年ぐらいに日本では荷物や人を積むのにサイドカーが多かったのですが、4輪車の普及に伴い、サイドカーが必要なくなり、それに伴い、側車がなくなり、バイク本体が単独で走るようになったので、単車と呼ばれるようになりました。
これから、僕が今まで乗ってきた単車について、紹介させて頂きます。

Tel,0877-23-8300　Fax,0877-23-8321　E-mail,office@marugamerc.com　http://www.marugamerc.com

2019.9.5
Vol.57
№9
（2767）

僕が最初に乗った単車は6才の時、ホンダのモンキーZA50で車体に直接タイヤが付いているものです。アクセルの使い方だけ教えてもらい、ブレーキの使い方を知らずにそのまま突っ込んで終わったという経験がある。次に17才の時に、ヤマハのパッソーラ、19歳の時にカワサキのZGP400を買いました。20才になり、小型・中型免許を取得し、晴れて公道を走れるようになりました。その後、大型免許を取得し、ホンダのCB750Fを中古で買いました。その3か月後、軽トラックと正面衝突という大事故を起こしましたが、フルフェイスを被っていたおかげで命拾いをしました。その後、保険でCB750FCという単車を買いました。
22歳の頃、レース興味を持ち、初めてのレースで優勝しました。その後、本格的にレースに参戦するという事で、GZR250を購入し、山口県の西日本サーキットに通い、0．1秒を縮める為に頑張った1年半が非常に意味ある時であったと思います。24歳の時に転倒し恥骨骨折して、レースをやめました。
僕の戦友の加藤明が、昭和63年3月6日レースにおいて、事故死しました。
それ以来、僕にとって、毎年3月6日は青春のにおいが凝縮された1日になっています。